

日本小児理学療法学会より

8月14日に当学会より配信したトピックスについて、ご意見をいただきました。
このトピックスは小児理学療法を専門とする理学療法士に向けて「ヒトは動くことで人間に育つ」と題し掲載しましたが、「動けない自身のお子さんが人間ではないと言われている」との親御様のTwitter上でのご発言を代弁するお問い合わせをいただきました。

インターネット上での配信であり、多くの方々がアクセスできる公開性を考えた場合、その内容を十分な説明なしに発信することで、様々な立場の方々がどのように受け止めるかについての配慮が不十分であったと考えています。お問い合わせについて、運営幹事一同、真摯に受け止めております。その上で、私どもが社会的障害を取り除くことに責任を持つ立場の団体として、適切な文言に修正いたします。

すべての対象者様に対して、能動的な動きである「自動運動」と、受動的な動きである「他動運動」や機器などの支援による運動を、お子様の様子に応じて組み合わせて経験していただくことによって、心身の成長発達を援助することは、私ども理学療法士の大切な仕事の一部であります。今回はこの二つの側面を持つ「運動」つまり「自らで動くこと」と「他者や機器の支援で動くこと」を理学療法に常に応用していることについての説明が不十分であり、ご覧になった方々の誤解を生み、ご迷惑をおかけしたことをおわびいたします。

当学会が発信するコンテンツはすべて、運営幹事会の責任で作成しております。社会的障害を排除する観点から、問題となる表現を発出したことに対する運営幹事会の責任は否めないと考えております。この反省の上に立ち、今後は必要に応じて丁寧な注釈をつけるなどの対応を行い、誤解が生じることが無いよう、注意と配慮を継続するよう努めてまいります。

令和2年9月6日

日本小児理学療法学会運営幹事会

代表 小塚 直樹

中 徹・日浦 伸祐

辻 清張・横山美佐子

井上 和広・奥田 憲一

神谷 猛・北原エリ子

齋藤 大地・多田 智美

中林美代子・松崎 哲治

藪中 良彦・横井裕一郎